

# 負けないプランニング力

合格するために必要なプランニング力を身に付けよう。

製図試験をプロサッカー選手になるための入団試験だと考えてみてください。当たり前の話ですが、サッカーのルールを知らずして、プロサッカーチームの入団試験に合格できるわけがありません。にもかかわらず、ほとんどの受験生が、サッカーのルール（＝建物のプランニングルール）を知らないまま入団試験（＝製図試験）を受け続けています。

あなたは、建物のプランニングルールとは何かを他人に説明できますか。それを説明できないようであれば、本試験を含め、与えられた課題文を行き当たりばったりで解かれているのではないのでしょうか。

それでは、合格は運任せとなってしまいます。猛勉強し、学校等の課題は解けるにも関わらず、本番だと毎回、失敗してしまう受験生がいます。その理由は、建物のプランニングルールを理解できていないためです。どんなに多くの課題文を解いたところで、「サッカーのルール（＝建物のプランニングルール）」を身につけることはできません。では、どうすれば身に着けられるのか。

## それは、模範解答例作りに他なりません。

与えられた課題文を解くのではなく、自由設計（フリープランニング）のトレーニングを積み重ねることが、プランニングルールを身につける一番の近道なのです。

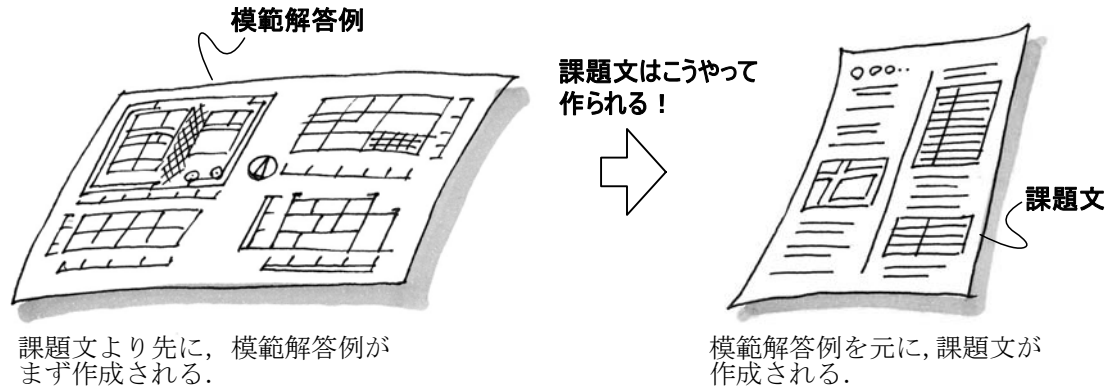
自由設計とは、敷地の大きさも建物の規模も、プログラムも、要求室の種類やボリューム等もすべて自由に決めてプランニングすることです。プランニングの途中で設定を変更しても構いません。ただし、生粋の理想的なプランを作成してください。自由に設定を変更できる訳ですから、理想的なプランを作成できるはずですが、どんなプランが理想的なのかというと、皆さんがこれまで解いてきた練習課題の模範解答例が理想的なプラン事例となります。少なくともウラ指導の課題の模範解答例は、全て理想的なプラン事例です。尚、本試験後に、公益財団法人建築技術教育普及センターがホームページで公開している標準解答例は、模範解答例ではなく、合格図面レベルを示す参考プランに過ぎませんのでご注意ください。

理想的なプラン＝模範解答例となりますので、ウラ指導では模範解答例づくりを通じて、建物のプランニングルールを受講生の皆さんにマスターして頂いております。建物のプランニングルールを身につけることで、プランニング時間も大幅に短縮できます。また、本番で的確にプランニングの方向性を客観的に判断できるようにもなります。そうなれば、本試験課題でどのような建物が出題されたとしても、本番のプランニングで悩んだり、失敗することはありません。

次ページより、具体的な模範解答例づくりトレーニングのやり方をご紹介します。

# 模範解答例作りって何？

プランニングのルールをマスターするための最も効果的な訓練方法が模範解答例作りです。



本試験課題も含めて、製図試験の課題文には、元となる解答例が存在します。それを『模範解答例』と呼びます。この模範解答例を元に、課題文が作成されるのです。

**この模範解答例を自分自身で自由に作成するのが、模範解答例作りです。**

**そんなことやって意味あんの？1つでも多くの課題を解いた方が合格に近づけると思うのですが？**

受験生の本音

模範解答例作りの練習を行うということは、製図試験に合格するために必要なプランニングのルールをマスターするための訓練であると同時に、課題文を作成する練習ということでもあります。つまり、模範解答例作りができるようになると、製図試験の課題文を作成できるようになるのです。

あなたは頭のどこかで、課題文とは、どこぞの偉い人にしか作成できないものと考えていませんか？そんなことは決してありません。プランニングのルールをマスターすれば、課題文は誰にでも作成できます。前ページで説明してきたように、一級建築士になるためには、プランニングのルールをマスターすることが必要です。極端に言えば、一級建築士になるには、製図試験の課題文を作成できるようにならないといけない、最低でも、その元になる模範解答例を作成できるようにならないと、一級建築士を目指そうとすること自体が到底無理な話になってしまいます。

本当に自分で模範解答例を作成できるようになれるのか、不安もあると思います。

**大丈夫です！心構えと訓練次第で誰でも作成できるようになります。**

実際に、これまで一度も設計（プランニング）の世界に関わったことがない人でも、作成できています。本気で一級建築士試験の合格を目指しているあなたに、お伝えしておきたいことがあります。

**模範解答例と課題文を作成できる人間が製図試験に合格できないわけがない！**

そのことを、決して忘れないでください。

あなたのライバル達は、サッカーのルールを知らないばかりか、リフティングとは何かということすら知らない状態で、プロサッカーの入団試験に参加してくるような人達です。あなたがサッカーのルールをマスターしてしまえば、あとは実践あるのみです。実践は第3章にて説明していきますが、まずは、サッカーのルールを知るところから始めましょう。

# 模範解答例作りのルール

設計条件を自由に設定して、模範解答例を作成しましょう。

課題文に載っている敷地の大きさや周辺条件を自由に設定して、建物を計画してください。要求室の室名、数、面積なども、全て自分で自由に決めてください。どんな建物にするのかは、全て、アナタ次第です。クライアントと設計者の二役を一人でこなすといった感じです。

ただし、いくつかのルールを頭に入れておいて欲しいのです。というか、そのルールを体感しておくことが、実は、製図試験のカラクリのひとつを解き明かすことにもなります。情報として知るだけではなく、体感しなければわかりません。製図試験に合格したければ、実践することを大事にしてください。

## 1. 図面を作成する用紙はA2サイズに限定！

当たり前の話ですが、模範解答例（図面）を作成する用紙のサイズは、本試験同様、A2サイズに限定されます。A2サイズの中に、各種図面と面積表などを納めなければなりません。ということは、おのずと敷地の大きさの上限も決まってきます。標準的な敷地サイズは、50m×40m程度となります。また、床面積の合計（2階建ての場合）は、2,500㎡程度となります。建物のウツワは、6×4コマを標準としてください（詳しくは81ページで説明します）。

## 2. A3サイズの内紙に計画の要点等を記述する

平成21年より、A3サイズの用紙に計画の要点等（10問程度）を記述するようになりました。したがって、模範解答例作りにおいても、設問と解答という形で、建築計画、構造計画、設備計画等について、10問程度を記述してみよう。どんな内容を記述すればいいのかは、過去問題などを参考にしてください。

## 3. 6時間30分で完成できる難易度とする

試験時間内に8割程度の受験生が完成させられるような難易度で計画しましょう。本試験においても、受験生の4割程度しか完成できないような課題文が出題されたとしたら、大問題になってしまいます。そのような課題文の本試験で、もし、あなたが未完成に終わってしまったら、「難しすぎる！」と試験元にクレームをつけることでしょうか。この難易度設定が非常に難しいのです。こだわり過ぎると難易度が高くなり過ぎてしまい、逆に手を抜いても掴みどころのない問題になってしまい難易度が高くなってしまいます（そこが、出題者側の泣き所であり、いわば、弱点です。それを学んでください）。

## 4. 千差万別の解答が出ないようにする

いろいろな解釈が可能な課題文が本試験で出題されたとしたら、採点して図面（プラン）の良し悪しを判定することができません（順位もつけられない！）。そこで、一発でプランの良し悪しを判定できるようにするための『落とすところ』を模範解答例の中に盛り込んでください（落とすところについては、23ページ参照）。

- ※ 3と4については、最初はよくわからないと思いますので、あまり気にし過ぎないようにしてください。しかし、常に頭の片隅には入れておかないと、何度練習しても、わかるようにはなりません。かなり大変な作業とはなりますが、この辺りを効果的に理解する方法としては、自分で作った模範解答例を元に課題文を作成してみて、その課題文を、別の受験生に解いてもらう（又は自分で解いてみる）という方法があります。

## ■模範解答例作りのポイント

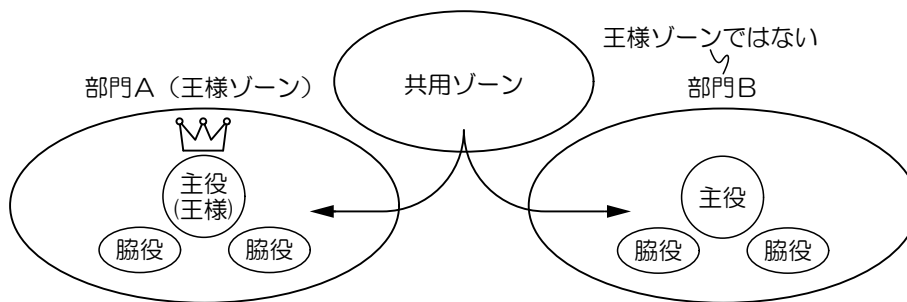
### ①プログラムを考える

簡単なものでかまいませんので、模範解答例のもととなるプログラム図を作成してください。この基本プログラム図をもとにプランニングを行い、最終的に出来上がったプランから、詳細なプログラム図を作成してみてください。出来上がったプログラム図と基本プログラム図が違っていた場合は、基本プログラム図を修正してください。ここで重要なことは、プランニングを行う際には、プログラム図を意識することです。

### ②建物の主役を考える

建物で主役となる（建物を構成する上で大切な）空間を考えてみましょう。建物の主役は、1つの要求室であるとは限りません。グループやゾーン（部門）が主役になる場合もあります。ゾーン（部門）には、建物のプランの中心となるゾーン（王様ゾーン）とその他のゾーンに分けて考えられる場合があります。さらに、それぞれのゾーンの中に、主役と脇役になる空間が存在します。下図のようなイメージとなります。この王様ゾーンをどのように扱うのが、空間構成を考える上でとても重要なこととなります。

主役に対して脇役となる空間もありますので、両者の計画にメリハリがあるようにプランニングすると、主役が主役らしくなり、製図試験における理想系プランに近づきます。



王様ゾーンには、必ず主役を作ること！  
どの空間（部屋）が主役にあたるのかを明確にするためにも、主役は複数作らずに、主役以外の空間は、脇役（子分）として扱うこと！  
脇役は、主役以上に目立たせてはいけない！  
脇役が主役を引き立てるようなプランニングを目指すことで、空間構成上の物語（ストーリー）が生まれてきます。

王様ゾーンでない部門には、無理に主役や脇役を作る必要はありませんが、あまりにも個性の強い主役（空間）を作ってはけません！  
なぜなら、王様ゾーンが目立たなくなってしまうからです。王様ゾーンを引き立たせるためにもあえて控え目に扱きましょう。

### ③建物全体の計画を俯瞰する

試験では、部分的な計画の優劣よりも、建物全体の計画バランスが重要になります。常に、建物全体の計画を俯瞰する意識を持って、プランニングを行ってください。建物全体の計画を俯瞰することを心がけると、課題を解いて解答を作成する際に、大きなミスを見つけやすくなります（大きなミスをしなくなります）。

## ■模範解答例作りの注意点

### ①特殊な設定は避ける

難易度設定にも関係してきますが、一部の受験生にしか解けない（わからない）ような特殊な条件設定は避けましょう。一級建築士の製図試験は、特殊な建物の設計能力を問うものではありません。アナタにしか解けないような課題では、試験として成立しません。オリジナリティを追求するコンペとは違いますので、実在する建物をモデルにすると考えやすいでしょう。

### ②最初に設定した条件にこだわり過ぎない

最初に設定した、敷地や要求室の設定は、プランニングを進める途中で、必要に応じて自由に変更してもOKです。模範解答例としてのプランになるように、設計条件を随時変更、調整して行ってください。最初の設定にこだわり過ぎて、プランが上手くまとまらないようでは、本末転倒ですよ。